

長期間休止していた浴場施設の 営業再開前の留意点 (公衆浴場、共同浴場)

1 浴室等の清掃・消毒する主な設備、箇所

次の設備や箇所について、汚れ具合など必要に応じてブラシやスポンジで清掃及び消毒してください。

※ 消毒剤や洗浄剤は、材質にあったものを選びましょう。材質によっては、腐食したり、退色することがあります。

- シャワーヘッドや調整箱（清掃や消毒を行うことが困難な場合、高温（60℃以上）の湯を流し続けることも、設備内で繁殖した菌を減弱させるために有効です。その際は、火傷に注意してください。）
- 浴槽内の温度センサーや水位計管（水が滞留しやすい箇所）
- 浴室や浴槽の壁面・底面のタイル（剥離、ひび割れ等の菌が付着しやすい箇所）
- 気泡発生装置、打たせ湯のエアロゾルが発生しやすい箇所
- サウナ室内（腰掛部分や床面等）
- 浴室内の桶、腰掛等



2 循環配管の清掃・消毒等

- 休業期間中に、浴槽に水を張っていたか、空にしていたかによって、汚れ具合が異なりますが、以下の内容を参考に、清掃及び消毒を実施してください。

(1) ろ過方式に応じて、次のいずれかの方法により、ろ過器に付着した汚濁物質を除去してください。

ア ろ過器のろ材を、高濃度の有効塩素を含む水で逆洗浄してください。

* 材質の腐食を考慮して、遊離残留塩素濃度5～10mg/L程度にする。

イ けいそう土を洗い落として、新しいけいそう土を付着させてろ過膜を作り直してください。

ウ カートリッジを洗浄し、又は新しいものと交換してください。



(2) 浴槽、循環配管内、集毛器、ろ過装置等を、次のいずれかの方法により清掃及び消毒してください。その後、洗浄を十分に行い、完全換水してください。

ア 高濃度の有効塩素を含む浴槽水を数時間循環させる方法（裏面参照）

* 配管等の材質の腐食を考慮して遊離残留塩素濃度5～10mg/L程度にする。

イ 2～3%の濃度の過酸化水素を使用する方法

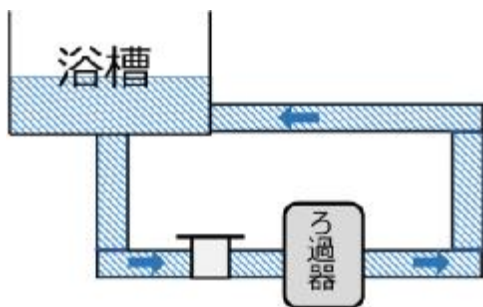
ウ 二酸化塩素を専用の発生装置を設けて発生させ、2～4mg/Lの濃度で注入する方法

- 他に、以下を確認し、必要に応じて清掃・補修等を行ってください。

- ・ 貯水槽・貯湯槽の内部が汚れていないか、破損箇所がないかどうか
- ・ 自動注入式の消毒装置が正常に稼働しているかどうか（ポンプやチューブにつまりがいないか）



③ 循環配管消毒時の塩素剤投入量、実際の塩素濃度の確認方法



<循環水量に対する塩素剤の投入量>

例)
循環水量 (浴槽、循環配管、回収槽等) の
【①容量合計】が 10 m^3 の場合

【②有効塩素濃度亜2% 次亜塩素酸ナトリウム溶液】を用いて、
系統内の【③残留塩素濃度を 5 mg/L 】にする場合の塩素剤の投入量の目安量は・・・

$$\text{塩素剤投入量} = \frac{\text{③目標とする残留塩素濃度} \times \text{①循環水の容量}(\text{m}^3) \times 100}{\text{②使用薬剤の塩素濃度}}$$

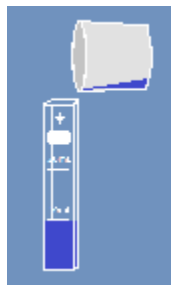
$$\text{塩素剤投入量} = \frac{5 \times 10 \times 100}{12}$$

塩素剤投入量 $\approx 417\text{ mL}$ (0.417 L) となります。



<配管消毒中の塩素濃度が 5 mg/L であるかどうかの測定方法>

(正確な測定方法ではありませんが、簡易的に測定する方法をご紹介します)

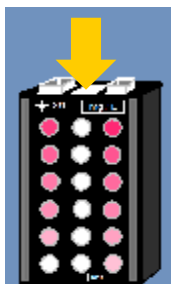


①消毒中の浴槽水 10 mL を採取し、
コップ等の容器に入れ、ミネラルウオー
ター(脱塩素水) 90 mL を同じ容器に
入れて $1/10$ に薄めます。

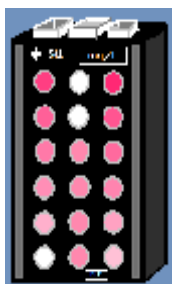


③DPD試薬を入れる。

②薄めた水 10 mL を測定器のセルに入れる。



④測定器の中央にセルを挿入する。



⑤中央のセルの色が左右の標
準比色窓の 0.5 mg/L と同じ
濃さであれば、実際の濃度は
約 5 mg/L とみなせます。

④ 給水・給湯設備の管理

- 長期休業によって、給水や給湯水が配管内に溜まったままとなっていますので、溜まった水・湯を排水するため給水栓、各カーンや各シャワー栓の水・湯をしばらく流してください。
- 給水や飲用栓では、遊離残留塩素濃度 0.1 mg/L 以上あることを確認してください。しばらく水を流しても塩素濃度を確保できない場合は、貯水槽の清掃を検討してください。

※ この他、別紙「店舗・事務所内の共有部分の定期的な消毒手順」とおり、従業員や来場者の手がよく触れる部分の消毒に努めてください。